

kun rdzob bden pa'i ngo bo と don dam bden pa'i ngo bo
——『入中論』第6章第23偈の解釈をめぐって——

福田洋一

1. はじめに

ツォンカパの中観思想において、入中論に基づく二諦説は、中期以降に顕著になる。中論の註釈『正理大海』、『菩提道次第小論あるいは中篇』、入中論釈『密意解明』における二諦説は、二諦の分類、定義、個々の内容など、組織的な論述が共通している。まったく一致する表現や文も多い。

『入中論』での二諦説の説明は第六章「現前地」第23偈から始まる。ツォンカパもこの第23偈から二諦説を述べ始める。第23偈は次のような偈である。

།དངོས་ཀྱི་ཡང་དག་བརྒྱན་པ་མཐོང་བ་ཡིས།
།དངོས་རྟོག་ཏེ་བོ་གཉིས་ནི་འཛིན་པར་འགྱུར།
།ཡང་དག་མཐོང་ཡུལ་གང་ཡིན་དེ་ཉིད་དེ།
།མཐོང་བ་བརྒྱན་པ་ཀུན་ཚོ་བ་བདེན་པར་གསུངས། (MA, VI-23)

全ての实在は、正しい〔対象〕を認識する知によって〔その〕存在が得られるngo boと誤った〔対象〕を認識する知によって〔その〕存在が得られるngo boという二つのngo boを保持している。正しい〔対象〕を認識する知の対象であるものは真実〔すなわち勝義諦〕であり、誤った〔対象〕を認識する知の対象であるものは世俗諦であると〔如来たちは〕お説きになった。

この偈は二諦の総論とも言うべきもので、ツォンカパ（に限らず注釈者たち）はそこに多くの内容を読み取っている。『密意解明』の科段で言えば、「二諦の一般的設定 (bden pa gnyis kyi spyi'i rnam gzhaḡ) 」の下の「二諦への分類によって諸法に二つずつのngo boがあると述べること」と「二諦についてのその他の設定の説明」という二つの節にまたがっている。内容としては、二諦の分類の基体、二諦に分けられる意味、それぞれの定義、二諦の同一性などが論じられる。他の著作でも、科段の分け方こそ多少異なるが、そこで論じられる内容はほぼ一致している。

さて、その議論の中で、ngo boという語が何度も大事なところで使われる。この偈のサンスクリット語原文がBodhicaryāvatāra pañjikāに残されているが、ngo boはrūpaの訳であり、通常は「性質」「本質」や「本性」「自性」などと訳される。全ての实在は二つの本質、勝義諦という本質と世俗諦という本質を有している。二諦は、基体たる实在が有する属性であるということになる。

しかし、一方で、この偈自身には説かれていないが、伝統的にその二諦の関係について諸説があり、ツォンカパはカダム派の伝統に従って、それらが「同一のngo boで、ldog paが異なるもの (ngo bo gcig ldog pa tha dad) 」であると主張する。このngo bo gcig ldog pa tha dadは、一般的な論理学の用語で、二つの存在 (dharma、chos、法、ダルマ) が名称・概念としては異なるが存在としては一体のものであることを意味する。このときのngo boは、「性質」や「本質」「自性」といった訳では意味が通じない。同じ二諦について、同じ箇所、同じ言葉が、同じ意味では理解できないような使われ方をしている。ngo boをどのような意味で理解すればいいであろうか。もちろん、ngo boという用語は、仏教文献、とりわけチベットの文献に頻出する語彙であるので、その意

味を確定するためには、二諦に限らず、様々な用例を研究する必要がある。しかし、ひとまず二諦という明確な文脈のもとでその意味を考へてみることで、少なくともツォンカパの二諦説についての理解を少しでも深められるのではないかと期待する。

ここで取り上げたい命題がもう一つある。二諦への分類の基体が「所知 (shes bya)」であるという命題である。この主張自体は『入中論』には説かれていないので、経証としては別の経典『父子合集経 Pitāputrasamāgamasūtra』が引用される。当時、この問題についてはいくつかの異説があり、ツォンカパ (およびゲルク派の論師たち)、それらに対する批判として自説を展開するが、ここでは、その批判はさておき、その意味するところ、とりわけ全ての実在が世俗諦の ngo bo と勝義諦の ngo go を持っているという主張との関係を考へたい。

要するに、本稿では次の三つの命題の間の関係を考へ察する。

1. 二諦の分類の基体は所知である。
2. 全ての実在は、勝義諦の ngo bo と世俗諦の ngo bo の二つを有している。
3. 勝義諦と世俗諦は、ngo bo gcig ldog pa tha dad である。